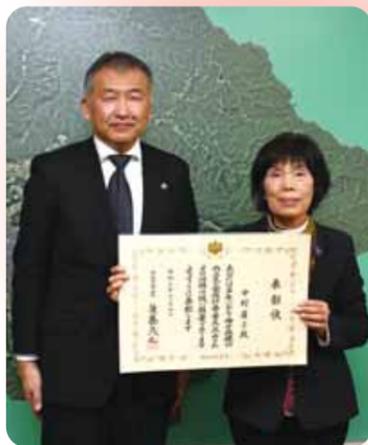


おめでとうございます



勝山市保健推進員を務める中村廣子さんが長年の活動を認められて、母子保健家族計画事業功労者の厚生労働大臣表彰を受賞し、市長に報告しました。

卒業式に手作りまゆ玉コサージュ

■1月27日 北郷小学校



北郷小学校とゆめおーれ勝山が連携して行うまゆ玉を使用したコサージュづくり。この日、6年生が作ったコサージュは、卒業式に自ら着用します。

ヨシストローでプラごみの削減へ

■1月28日 昭和町1丁目



平泉寺小学校で取り組む池ヶ原湿原の環境保全活動の一環で製作したヨシ製のストローを、市内の飲食店に贈呈し、プラスチックごみ削減を訴えました。

火災発生ゼロを願って一斉放水

■1月8日 片瀬町



市民交流センター前駐車場において、勝山市消防本部の出初式が行われ、集まった市消防団が上空に向け一斉放水し、今年の火災発生ゼロを願いました。

色とりどり 園児がまゆ玉かざり

■1月17日 ゆめおーれ勝山



ゆめおーれ勝山のカラフルなまゆ玉かざり。この日、まつぶんこども園の園児によって飾られたまゆ玉や縁起物には、家内安全の願いが込められています。

災害発生時の相互協力協定を締結

■1月17日 市役所



勝山市と勝山市社会福祉協議会、勝山青年会議所は、災害時において効率的な復興活動やボランティア活動などを行うための相互協力協定を締結しました。

JCHO-Column

「脚の狭心症」 下肢閉塞性動脈硬化症 (ASO)

福井勝山総合病院
循環器内科部長 佐藤 岳彦



下肢閉塞性動脈硬化症(ASO)とは、足に血液を送る血管が動脈硬化などにより狭窄、閉塞して血流が低下することにより、下肢の痛みなどの症状を起す病気です。ASOは年齢とともに増加し、他の動脈硬化による疾患(脳梗塞、心筋梗塞)などと同様に高血圧、脂質異常症、糖尿病などの病気が合併し、喫煙などが危険因子とされています。特に、喫煙や糖尿病などは発症を3〜4倍増加させるといわれており、実際に診療していてもそれらの危険因子をお持ちの患者さんがとても多い印象です。症状は無症状の場合もありますが、典型的なものとしては間欠性跛行(しばらく歩くと足のだるさや痛みなどが出現し、しばらく休んでいると数分程度で症状が改善し再び歩けるようになります)と言われる症状があります。進行すると足の色調や温度変化(色が悪い、冷たいなど)、安静時の足先などの痛み、潰瘍、壊死などを認める場合もあります。



診断には、四肢の血圧測定(ABI測定)や画像検査(造影CT、血管造影)などの検査を行い、症状や検査結果により治療を検討していきます。治療は抗血小板剤などの薬物治療、運動療法、血管内治療(ステント治療)、バイパス手術などがありますが、壊死を起したり感染を伴う場合には下肢の切断が必要となる場合もあります。ASOの予防のために、まずは禁煙、危険因子となる疾患をお持ちの方はその疾患のコントロールが重要です。また日頃から自分の足について異常がないかチェックしていただき、間欠性跛行などの痛みや、足の色調異常など気になる症状があれば循環器内科にご相談ください。

平泉寺に残る梅田家の備荒倉

江戸時代の三大飢饉の中でも、最も被害が大きかったのが天保4年(1833)〜10年にわたる天保飢饉でした。勝山では6年〜8年にかけて被害が甚大で「天保騒略記」には以下のように記されています。「町方でも家数が減り、日に5人、7人と亡くなっていく、所々で行列があり、前代未聞の事である。人数も4月から6月迄で、疫病で死去する割合は式歩(2%)とあります。以後、勝山藩はこうした事態に備えるため、米・粃を貯蔵して備える備荒倉を設けることにした。領内に3ヶ所、勝山市域では平泉寺村梅田治右衛門家、滝波村の笠川喜多右衛門家に設けられた。文久元年(1861)の備荒倉普請の請負証文が両家に残る。当時、両家は勝山藩の大庄屋役を勤めていた。文面はほぼ似通っており、大きさは4間(7.2m)に6間で、梅田家の史料には費用が1貫820匁で、請負人が三郎右衛門、請人は平次郎、



備荒倉

笠川家は53両で、請負人藤助、請人三郎右衛門とある。笠川家の53両で現代と比較してみる。ただし、何を基準とするかで1両の換算額も変わってくる。ソバでは12万〜13万円、大工の手間だと30万〜40万とされている。ここでは最大限40万で換算すると2120万円となる。「平泉寺組合御高掛り備荒倉御田取立帳」によると、平泉寺組は若猪野など郡上藩領の村々を除いた現猪瀬地区の村々と、平泉寺区の村々で結ばれていた。そしてこの平泉寺組には粃85俵3斗1升1合9勺が割り当てられている。1石(10斗)当たり6合にあたる賦課が、各村の村高(1村の田畑・屋敷などの総石高)に応じて割り当てられた。



地域文化を掘り起こそう

市史編集室 山田 雄造